

平成20年度 徳島県立阿南工業高等学校 学校評価 総括評価票

1 教育目標

- ① 一人ひとりの生徒の個性や多様性を理解し、尊重する教育を推進する。
- ② 自ら学び、自ら考え、主体的に判断・行動できる教育を推進する。
- ③ 社会的な規範を尊重するとともに、人権に対する鋭い感性を磨き、自然との共生を推進する。

2 本年度の学校経営目標・重点課題

- ① ものづくりを基本に、ひとづくり、キャリア教育を推進する。
- ② 基礎学力の定着、向上に努め、進路実現が図れる学校づくりを推進する。
- ③ 学校の積極的な情報公開に努めるなど、開かれた学校づくりを推進する。
- ④ 体験的活動や部活動など、活力ある元気な学校づくりを推進する。
- ⑤ 学校の独自性と柔軟性を持ち、新しい学校づくりに参画する。

3 重点目標と計画

中期目標	重点目標	目標達成のための計画	評価指標・活動計画	評価指標の達成度・活動計画の実施状況	評価	次年度の取組・課題
ひとづくり	① 基礎学力の定着を図る。	3学期制移行後も学校行事等の精選・実施方法の工夫により授業時数の確保に努める。	年間の授業実施時数の目標を1単位当たり35時間とする。	1, 2学年の学年末での1単位当たりの実施時数は平均28時間で、35時間の80%が確保できた。	B	今年度は昨年度と比べ、1単位あたりの実施時数が少なくなった。次年度は行事の精選をさらに行い、昨年並みの授業時数を確保したい
		授業方法を改善し、分かりやすく興味・関心が持てる授業を展開する。	生徒による授業評価と教員の自己評価で総合評価を行い、各教科の達成度をみる。	学力向上やホームルーム活動において研究授業・研究協議を実施し、各自のスキルアップ及び指導方法の改善を図った。生徒による授業評価は平均3.6であった。	B	分かりやすい授業を展開するため、機会を捉え研究授業・研究協議を持つように努める。
		各教科による家庭学習用課題の作成と生徒への啓発により、家庭学習の習慣化を図る。	家庭学習の時間調査を2回実施し、生徒の変化をみる。	考查期間中では、1学期より2学期の方が学習時間が増えた生徒は全体の25%で、64%が変わらない。考查期間以外はまったくしないが64%であった。	B	生徒アンケートにより家庭学習時間が非常に少ないことが分かった。学力向上の1つとして家庭学習時間の増加に努める。
		生徒の実態に応じた習熟度別学習を展開する。	生徒アンケートにより、その満足度をみる。	あこや意識調査の結果、数学で1年生の満足度67%、2年生で64%、英語で1年生61%、2年生61%であった。	B	生徒満足度が高いので次年度も継続し実施したい。
ひとづくり	② 基本的な生活習慣の確立を図る。	規則正しい生活を心掛けるよう指導し遅刻をなくす。(遅刻時の声かけ、遅刻回数に応じた個別指導)	1日の学校全体の遅刻数を5回以内にする。(平均)	1日の平均遅刻回数は9.5回であった。学級全体での月5回以内遅刻で表彰された学級数は昨年と比べ1.1学級増加した。遅刻者に対してはカード提出時に担当の係より声かけを行った。	C	特定の生徒が遅刻をしており、その生徒に対する粘り強い指導と保護者との連携を図っていく。
		積極的に明るく元気な挨拶が出来るようにする。(パワフル週間、学校安全の日に指導)	すべての生徒が挨拶出来るようにする。	毎月、3日間のパワフル週間と学校安全の日の登校時に挨拶運動を行った。自ら進んで挨拶をする生徒が増加し、企業などの外部から元気な挨拶ができるとの評価を得た。	A	引き続き挨拶指導を行い、良好な人間関係を築いていきたい。

	正しい頭髪服装を維持し爽やかに生活させる。(全校集会における頭髪服装指導と継続的な改善指導、帰宅指導)	頭髪服装検査を月1回実施し、1週間以内に改善を要する生徒を0にする。	全校朝会時に頭髪服装検査を実施した。該当生徒の改善に要した日数の平均が8.9日(土・日含む)である。帰宅指導をした生徒は数名であったが最終的に全員改善できた。	B	全校朝会時に改善を要する生徒数を減らすよう、日常のねばり強い指導を続ける。
③人権意識の高揚を図る。	「人権を確かめる日」、「人権教育統一ホームルーム活動」の充実を図る。	人権委員による反省会を実施する。	人権委員にホームルーム活動の内容や生徒から出た意見等について記録させた。放課後、学年ごとに人権委員による反省会を行い、自分たちができることについて協議した。年間5回実施した。	B	記録簿のレイアウトや記載する内容を記入しやすい形式に変更する。人権委員会では反省だけでなく人権意識を深める学習ができる内容を加える。
	学校の教育活動全体をとおして、人権尊重の精神を訴える。	人権意識調査等、生徒による評価を行う。	人権学習を肯定的に評価するアンケートの結果が約60%であった。県や市の人権ポスター・標語に応募し、多くの入賞者がでた。	B	人権学習の内容をよりよくするため、教職員間で協議する機会を増やし充実させる。
④環境教育を推進する	生徒に自発的な清掃美化意識を喚起させ毎日の清掃を徹底させる。	出席率100%を目指す。(清掃出席簿)	各分担清掃場所での出席率を調査した結果、平均97%であった。	B	全員が毎日参加するよう担任と連携を図っていく。
	定期的で大掃除、ワックスがけ、除草を実施する。	大掃除を月1回、ワックスがけを年2回、除草を年1回実施する。	大掃除は毎月実施。ワックスがけは多いクラスで3回、最低2回は実施した。除草は1回実施した。	A	除草は年1回であるが、できれば2回実施することを検討したい。
	循環型社会形成の推進のため、教室等のゴミ資源を6分類する資源箱を設置し、資源ゴミの分別を徹底させる。	分類程度を適宜確認し、分別90%以上を目指す。	プラの分別状況は測定の結果80%(重量)であった。ゴミ集積場での分別状況は100%であった。学校版環境ISOの認定に向けた取り組みの中で、ゴミ分別をはじめ環境問題への意識は確実に高まってきている。	B	異物混入率の測定方法が重量でよいのか検討を要する。
⑤安全教育を推進する。	原付等の交通事故をなくすため、実技指導、講演会、自転車点検を行う。	月間の交通事故0を目指す。	年度当初、自転車で帰宅中に車と接触した事故が1件あった。毎月の自転車点検、ハブステップの除去と朝の校外安全指導を行った。原付の安全指導は実施したが、実技指導は実施できなかった。	B	引き続き毎月の自転車点検と校外指導を行う。特に登校時の指導は日数を増やし交通安全とマナーの指導に努める。
	避難訓練をより実践に即した方法に改善する。いつでも、どこでも安全に避難し、人員が確認できるよう体制を整備する。	安全避難率100%を目指す。	避難訓練を毎学期実施し全員が安全に避難できた。携帯による安否確認の連絡体制の整備ができなかった。	B	より効果的な訓練方法の検討をしている。全校集会時に環境や防災についての意識付けを行う必要がある。
⑥健康教育を推進する	円滑な教育相談活動を実施するための教育相談室の運用を図るとともに、教育相談の広報活動を行う。	教育相談室を毎日開室する。教育相談だより”やすらぎ”を年3回発行する。	昼休みには、ほぼ毎日教育相談室を開室した。教育相談だよりも予定どおり3回発行し広報に努めた。	B	教育相談室名を生徒に親しみやすい、また入室しやすい名称への変更を検討したい。
	衛生委員会を活性化するなかで、自ら健康管理ができた。	保健室を繰り返し利用する生徒の減少を目指す。	繰り返し保健室に来室する生徒には継続的に保健指導を行った。	B	生活習慣に問題のある生徒に対しての保健指導と、特に問題がなく来室する

		るよう継続的な保健指導を行う。			生徒への教育相談を充実させる。麻疹の接種率を上げるための啓発を行う。
		食育に関する全体計画を作成するとともに、食育の指導目標等について全教職員が共通理解する。	生徒や地域の実態を踏まえた全体計画の策定を目指す。食育の指導に関する教職員研修を実施する。	「高等学校食育全体計画」を作成し、食に関する講演会を開催した。阿工祭では厚生委員会が清涼飲料水に関する展示や骨密度の測定を行い、食や健康についての関心を深める取組を行った。	B 年間のホームルーム活動計画に位置づけ計画的な食育を実施する。
	⑦読書活動を推進する。	”朝の読書”を充実し、読書習慣の定着を図る。	朝の読書の1ヵ月継続実施を試行し、その効果を検討する。	朝の読書の1か月間継続実施のための候補期間を設定し教務課と協議を重ねたが、他の行事等との関連で調整がつかなかった。毎月の朝の読書は、これまでどおりに実施した。	C 本来の校時にない設定を1ヶ月継続して運用するのはかなり困難である。代替案の検討等、抜本的な転換が必要である。
		図書館の蔵書の充実と整備に努める。	新着図書等のディスプレイを工夫し、興味・関心を引く書籍情報の発信を行う。	生徒のリクエストを参考に購入図書を決定し図書館日より書籍情報を広報した。館内2カ所でコメントを付けた新着図書を展示した。寄贈図書等が多くあり図書の充実につながった。	B 新着図書だけでなく、教員や生徒有志からのお薦め本の紹介コーナーの設置を検討する。
ものづくり	①ものづくりの技術・技能の向上を図る。	地域における技術技能に卓越した外部講師による技術講演会を開催する。	生徒による評価を行う。	機械電子コースは、高度熟練技能士、機械技術者(理数コースも受講)、電気コースは大学教授、情報土木コースは土木技術者による講演会を実施した。生徒は専門分野であり、関心を持って講演会に臨んだ。	B 今後も生徒に興味関心の持てる技術講演会を開催していく。
	②起業家精神を育成する。	模擬株式会社「鉄男」を設立し、生産から管理・販売までの一貫した起業家教育を展開する。	ビジネスプラン通りに「鉄男」の運営が出来たか、生徒による評価を行う。	プランどおりに運営ができた。徳島市で開催された「徳島コラボレーションプラザ」と阿工祭で広報活動や販売実習を行い、車イスの購入につながった。	B 今後においても本校の特色ある取組として、「鉄男」による起業家教育を展開していく。
	③ものづくりの成果を生かす	旋盤作業、電気工事作業、測量競技など高校生ものづくりコンテストへの出場や、ロボット競技会に出場する。	県におけるコンテストや競技会で上位の成績を修める。	旋盤作業は県大会で準優勝し四国大会に出場した。電気工事、測量競技はともに昨年度より順位を下げた。競技ロボットは決勝トーナメントに進出できなかった。旋盤3級技能士に初挑戦し3名が合格し、2名が知事賞、協会賞を受賞した。	B 練習を積み、高校生ものづくりコンテスト四国大会に常時出場できるようにする。必要な工具等を整備し、更に高度な旋盤2級技能士に挑戦させるとともに全国大会出場を目指す。
		地域住民や小中学校等のニーズ把握を踏まえたものづくりを行い、ボランティア活動を推進する。	要望に即した作品であるかなど作品納入先でのアンケートを実施する。	要望に応じた製品の提供ができた。今年度は、中学校テニス部・陸上部、高校陸上部、市の施設から5件の依頼があった。防球ネット、トレーニング用具、フラワースタンドなどを製作した。	A 今後においても、地域のニーズ調査を行い、ものづくり技術を生かした活動を行う。
キャリア教育	①望ましい職業観・勤労観の育成を図る。	生徒の進路希望や学習内容に応じた短期および長期のインターンシップが展開できるよう内容の充実を図る。	成果発表会の実施や生徒のアンケート等により評価を行う。	短期は114名が34事業所に、長期は希望者延べ16名が参加した。代表者によるマインドマップを活用した成果発表会を県教育委員会臨席のもと開催した。今年度、キャリア教育の成果が認められ文部科学大臣賞を受賞した。	A 専門教育や希望する進路が生かせる企業等で短期インターンシップができるよう企業開拓を幅広く行う。
		企業経験豊かな社会人講師の活用により、働くことへ	生徒アンケートによる評価を行う。	就職セミナー、進路講演会、開校記念講演、企業技術者による技術講演会などにおいて、職業観や	B 企業の方から、働くことの楽しさや職業人として求められることな

		の意欲の向上や職業に対する意識の高揚を図る。		勤労観の育成に努めた。54 %の生徒が役に立つと回答した。		ど、機会を捉え講演をお願いする。
②進路実現を支援する。		コース選択について、保護者・生徒が家庭でもよく話しあえるよう、コース選定保護者説明会の内容を充実させる。	生徒・保護者にアンケートを実施し、その満足度をみる。	休日と平日の夜間の2回実施し、保護者が参加しやすいようにした。昨年度の参加保護者71名に対し今年度は88名であった。担任による参加促進が功を奏した。1年生のアンケート結果は、満足とする回答が72%であった。	B	本校のコース制を理解して頂く大切な機会であるので全保護者が参加できることを目標とし更なる努力をする。
		実力テストを実施する。 1, 2年生：国数英, 年間4回, 3年生：国数英社理, 年間3回実施する。	実力テストと進路実現との関連についてアンケートを実施する。	アンケートの結果、実力テストが学力向上に役立っていると評価している生徒が1年生51%, 2年生57%, 3年生54%で全学年では53%であった。	C	1年生の評価(51%)が昨年度68%に比較して低下しており、特に1年生のテスト内容を検討するとともに基礎基本の大切さを訴え生徒のやる気を喚起させる。
		放課後補習を実施する。 国語・数学・英語 (全学年対象), 社会・理科(2,3年生対象)	昨年度と比較して実施時数を増加させ、出席率を上げる。	補習への平均出席率、平均実施回数共に昨年度並であった。	B	放課後補習の出席率を上げるには部活動や資格試験対策補習との調整が必要である。夏休み以外の出席率が低い傾向にあるので、進学希望者を中心に繰り返し参加を呼びかけていく。
		3年担任、進路課員が、最新の進路に関する情報を収集し、生徒に適切な情報の提供に努める。	生徒の希望する企業等を訪問し、適切な資料や情報を収集する。	前年並みの企業・学校訪問を行い進路情報の収集ができた。県外には、1学期中間考査時に6名、学年末には5名が出かけ卒業生の追指導も行った。	B	今後進路における厳しさが増すなか、産業界等の最新情報を収集し生徒の進路選択支援に活用する。
		生徒の能力・適性を生かした進路指導と進路選択の支援を行う。	生徒アンケートによる評価を行う。	担任・コース長・進路課が連携し、ほぼ適切な進路支援ができた。生徒アンケート結果から自分の適性を生かせる進路選択ができたとする満足度が68%であった。就職内定の一次合格率は92%を超えた。	B	自分の進路に満足している生徒の割合をより増加させ80パーセント以上にする。
		各種の資格や検定の取得を推進するとともに、補習を計画的に実施し合格を目指す。	昨年度以上の合格者数、合格率を目指す。	第1種電気工事士は久しぶりに合格者2名、第2種は倍増の20名、危険物取扱者、全国工業校長協会の情報技術検定、計算技術検定など、多くの資格検定で合格者は昨年度に比べ大きく増加した。	A	更に合格者、合格率を上げるために計画的な補習を実施する。
開かれた学校づくり	①積極的な広報活動を推進する。	ホームページの内容を充実させるとともに、定期的に更新し最新の教育活動を広報する。	最低毎月2回ホームページを更新する。	学校行事の定期的な更新やトピックス掲載により新しい情報発信に努めた。ホームページの更新は未達成の月があった。	B	ホームページのリニューアルを実施したい。
		本校の教育内容や教育活動について、中学校で説明し広報に努める。	前年度以上に学校を訪問し広報する。	阿南地区の中学校は昨年と同数であるが、那賀町で1校減、海部郡で1校減の15校の訪問となった。	B	阿南市近郊の学校へ積極的に訪問をする。
	②学校開放を	中学生とその保護者を対象	多くの中学生の参加を目指す	昨年度の中学校19校生徒101名に対し、中学校	A	台風などの自然災害への対応と費用の

	推進する。	とする体験入学を充実させる。	す。	21 校生徒 151 名が参加し昨年度を大幅に上回った。	かからない学習内容を検討する。
		”徳島教育の日”に合わせ、中学生とその保護者、近隣住民に対し、公開授業、施設開放などを行う。	広報活動や内容を工夫し参加者の増加を目指す。	昨年度は参加中学校3校生徒8名。今年度は8校15名であった。地域住民は昨年度の10名が35名に増えた。	A 今年度は公開期間中に阿工祭があったため大幅に参加者が増えた。次年度もさらに参加が増えるよう期間の検討、広報に努めたい。
	③地域とともに歩む学校づくりを推進する。	クリーングリーン活動を中心とするボランティア活動を実施する。	校外でのボランティア活動を年4回以上行う。	ゴミ0の日に合わせた校外清掃を行った。その他のボランティア活動として、インターアクト部の阿南駅付近の清掃、生徒会の老健施設での車イス点検、音楽部の船瀬温泉、老健施設などでの演奏を実施した。	B 今後とも生徒会・ボランティア委員会を中心とした活動を行っていききたい。
		老健施設などを訪問しての修理や「鉄男」によるものづくりをとおした地域貢献を行う。	該当者への満足度などのアンケート調査による評価を行う。	近くの老健施設で生徒会役員による車イスの点検修理を行った。「鉄男」は市の施設の依頼を受け、満足して頂けるフラワースタンドを製作した。	B ものづくり技術を生かした地域貢献を本校の特色ある取組の一つにしていきたい。
	保護者が学校に気軽に来校できるよう、PTA活動を活性化させる。	PTA 総会、研修会などの参加人数を昨年度以上に増やす。	総会への参加者は昨年度より増加し64名になった。各種講習会や人権教育研修会への参加は少し増加した。家庭教育部は4回講習会を開催した。体育祭、阿工祭には多くのPTAの協力があつた。	A 保護者には行事内容について早めに案内し広く参加を呼びかけていく。	
	小学校での出前授業や、近隣の高校との連携による事業を実施する。	出前授業は5校以上の実施を目指す。新しい学校との連携に取り組む。	今年度、出前授業が実施できなかった。音楽部が富岡西高校との合同演奏会、電気コースが阿南養護学校とのものづくりで連携を図った。	B 小学校への出前授業を復活させる。	
学校の活性化	①特別活動の活性化を図る。	活気ある部活動を実施するため全員加入を目指す。	昨年度実績以上の入部率にする。	全体としての部活動加入割合は3ポイント減の84.3%であった。体育部の加入率が下がった。	C 部活動登録を少し遅らすなど1年生の猶予期間を長くする。85%以上を目指す。
		競技力の向上を目指す。	前年度を上回る成績や、活動実績を上げる。	全国高校総体に3部が団体出場を果たすなど、顕著な実績を上げることができた。お互いの部が切磋琢磨し全体として活発な活動ができている。	A お互いの部が切磋琢磨し、全体として活発な活動ができるようにしたい。
		生徒が自主的に活動する生徒会行事を実施する。	生徒会主催行事を年5回以上実施する。	阿工祭、生徒総会、予餞会など昨年度並みの行事を実施した。各種大会の壮行会は7回実施した。	B 生徒会の自発的な活動を促す指導をしていきたい。
		学校行事、特に体育祭、文化祭の内容を充実させる。	昨年度(250人)以上の文化祭の来校者数を目指す。	体育祭、文化祭とも活気のあるものとなった。来校者数は、ほぼ昨年並みである。体育祭では地域の幼稚園児を招待し本校生徒と楽しく交流をした。文化祭では生徒会主催のクイズ大会など新しい企画を試みた。	B 今年度も新しい企画に取り組み、文化祭を充実させたい。
	②校内教職員研修の充実を図る。	外部講師招聘のほか、模擬的・体験的な学習の推進を図るための新たな指導方法	昨年度以上の研修を実施する。	昨年度と同様に学力向上・人権教育・特別支援教育・食育・情報教育等に関する校内研修を実施した。学校外の講師による教員対象の研修は4回実	B 研修体系を見直し幅広く研修が行なえるよう企画する。今年度以上の校内研修を実施する。

		の習得など、実践的な研修内容の充実を図る。		施した。		
		マインドマップ (MM) 法の活用方法等について公開・研究授業を実施し、授業力の向上を図る。	特定の教科だけでなく、できる限り多くの教科で実施する。	総合技術、情報技術、工業技術基礎、1、2年のホームルーム活動の人権学習で導入した。春季休業中に他校の教員を含めた研修会を開催する。	B	マインドマップを本校の特色ある取組にしていき、活用方法等について他校へ発信していく。
	③事業の実施による活性化を図る (学力向上拠点形成事業)	教員のスキルアップを図るため、学力向上に関する職員研修、学力向上に関する公開授業を実施する。	職員研修を年4回以上、公開授業を3教科以上で実施する。	職員研修を8回実施した。他校教員等の参加を含む公開授業を英理社工の4教科で実施した。更に校内で工業3回、ホームルーム活動で2回の公開授業を実施した。	A	マインドマップを用いた効果的な学習や学習意欲向上に向けた研修をさらに推進する。具体的には、マインドマップ専門家を招いての研修や進路指導の手法として志望の動機や自己PR作成への応用を研究する。
		学力定着の方法の一つとして、自ら学び考える力の育成のためマインドマップノート法を習得させる。	マインドマップノート法が、学力向上に役立つとする生徒の評価により行う。	専門の講師を招き4時間(6月)および3時間(2月)の講座を持った。ホームルーム活動での展開や夏休みの課題などでマインドマップを活用した。アンケートの結果43%(昨年度67%)の1年生が役立つと回答した。	C	昨年度と比べ著しく評価が低下した。原因として、総合技術におけるマインドマップ実施時数の減少が考えられ、そのため苦手意識を持つ生徒へのケアが十分ではなかった。次年度はこの点を改善していきたい。
新しい学校づくり	①阿南市高校再編に伴い、新しい学校づくりを模索する。	実務者会議事務局校として、県教育委員会教育改革課との密接な連携を図り会議の運営を行なう。	学校の独自性を失わず、かつ地域協議会での意向を柔軟に受け入れる。	県教育委員会教育改革課の指導のもと、地域協議会委員と連絡を取り、できるだけ多くの委員が出席できるよう日程調整を行うとともに、スムーズな会議の運営に努めた。	B	県教委事務局及び再編対象校間との連絡調整をすみやかに図る。
		地域協議会の審議を受け、「新しい学校づくり推進委員会」での協議、校内への周知を行なう。	地域協議会開催の前後において、協議および教職員に周知する機会を持つ。	今年度地域協議会を1回実施した。阿南市地区において、高校再編を審議するための基盤的状況の変化にともない審議内容の再確認を行った。	B	地域協議会での協議内容については、教職員に周知を図る。
阿南寮の運営	①基本的な生活習慣の確立を図る。	寮の生活時間を守らせ、遅刻、欠席の防止を図る。名札掛の運用により生活状況を把握する。	出席状況を昨年度と比較し、良好にする。	欠席は前年度比95.7%。遅刻は42.1%であった。遅刻については、登校前の巡視により大幅な減少につながった。	A	引き続き生活時間を守るよう指導していく。
	②自主学習の習慣を定着させる。	進路実現に向けた自主学習習慣の確立を図るため、所属校との連携を図り、成績不振者の把握や個人面談を行なう。	所属校とは、月に1回以上の報告・連絡を行なう。	月1回生徒の所属校を訪問し学校行事や部活動の計画等を把握するとともに寮の行事への参加を依頼した。学期ごとに出欠・成績状況を把握し指導に生かした。男子自習室を整理し定期考査時の自主学習に活用できた。高校からの寮訪問では担任との連携を図った。個人面談は2回程度実施した。	B	日課表に学習時間帯を設定し自主学習の習慣化を図る。関係高校の全てに寮訪問を依頼する。年に3回の個人面談を実施する。
	③美しい寮の環境をつくる。	定期的に清掃を実施するとともに、ゴミを阿南市に送った5種類に分類する。	共用部分を週に2回、大掃除を学期に1回実施する。ゴミの分別を点検する。	週2回(月・木)の一斉清掃とゴミ分別を実施した。ゴミ分別はほぼできている。大掃除は、7、12、3月に実施した。	B	月・木曜日以外にも整理整頓やゴミの分別の徹底を図る。

